

FLORA KANAGAWA

JUN. 5. 1982

No. 12

神奈川県植物誌調査会ニュース 第12号

231 横浜市中区南仲通り5-60 神奈川県立博物館内
神奈川県植物誌調査会(振替口座 横浜3-10195)
TEL 045-201-0926

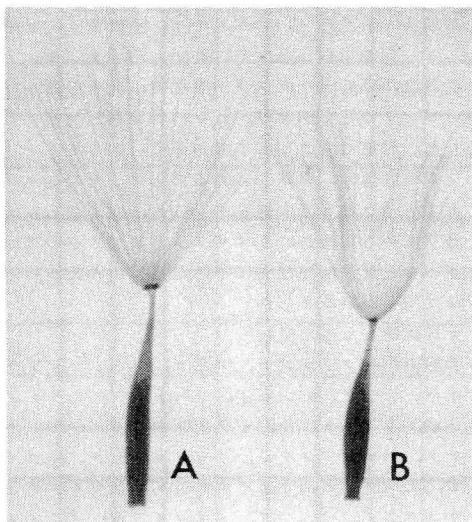


津久井溪谷で発見されたサガミニガナ、ホンバコンギクの芽生えも見られる。(高橋秀男撮影)

サガミニガナ

神奈川県ニガナ類 *Ixeris dentata* には花びらが5~7個あるニガナが最もふつうで、ほかに丹沢山地の高所に花びらが8-11個あるハナニガナが分布する。津久井溪谷のサツキ自生地を調査した際、そのどちらにも当たらないニガナを見出した。生育地は溪畔の水沫のあびるような所で、サツキ、ヤシヤゼンマイ、ホンバコンギクなど溪畔に特有な植物群に混じって見られる。溪畔に生えるニガナには紀伊半島北山峡のドロニガナ、新潟県三面川流域のミオモチニガナ(未発表)が知られるが、それとも異っている。

茎は丈低く、基部で多数分枝し、高さ15-30 cm、根葉は倒ひ針形、殆んど全縁で鋭頭、細長く幅は6-12 mmあり、基部はしだいに狭まって長柄となる。莖葉は線形で尾状鋭尖頭。花びらは5-7個。果実は長さ3-3.2 mm。ふつうのニガナも近くにあるが、それは丈が高く、葉は幅広く、果実は長さ4-4.5 mmある。いずれ機会をみて、記載したいと思っているが、とりあえずサガミガナと新称し、県博の研究報告13号に発表しておいた。(高橋秀男)



Aはニガナの果実で長さ4-4.5 mm、Bはサガミニガナの果実で長さ3-3.2 mmある。1目盛は1 mm。(大場達之撮影)

相模植物調査資料〔1〕

1. 横浜市南区のハマグワ

ハマグワはヤマグワの海岸型であり葉は殆んど無毛、葉質厚く、表面は強い光沢があります。他に海岸型のものとして伊豆七島・半島に生えるハチジョウグワは葉に二重鋭鋸歯があり、先端はやゝ尾状に延びる傾向があるので区別されるようです。ハマグワと考えられる一個体が南区大橋町大井橋際にありますが無毛なものでしょうか。この一品は以前から気付いて居りここに載録しておくこととしたい。ハマグワの学名については北村四郎先生が植物分類地理第31巻P51に提唱した *Morus australis* Poir. var. *maritima* Kitamura があり、母種はシマグワで基準品はレウニオン島での栽培品です。シマグワとヤマグワを区別する考え方であれば、従来の *M. bombycis* Koidz. var. *maritima* Koidz. を学名として採ることになります。なお堀田禎吉氏が分類地理13巻P142に相模の岡本産として *M. bombycis* Koidz. var. *sagamiensis* Hotta について書かれて居りますが、文面からはヤマグワの葉の深裂品又は奇形状のものと思われま

2. 湘南鷹取山のフナバラソウ

湘南鷹取山はカシワとコナラの雑種であるコガシワ *Quercus takatorensis* Makino の模式産地として有名な山です。フナバラソウはピロード状の毛を持ったガガイモ科の種で神奈川県内でも現在比較的稀なものと考えられます。かつては鎌倉の天園コースにもあったように記憶していますが1975年6月20日に湘南鷹取山(219m)へ行った折に榎山泰一先生が見出されました。1958年版県植物誌に湘南の産地は特に挙げてないので一筆。帰路、川沿いの湿地にオオネバリタデがあったのも珍しい眺めでした。これも榎山先生の発見でした。

3. 横浜市瀬谷区のウラゲワレモコウ

横浜・川崎地区の標本は県立鶴見高校に集められ森茂弥・勝山輝男両氏を中心にその御尽力で整理が進められていますが、3月20日にバラ科の標本を同定中にワレモコウの変種である本品を見出しました。稀なものようですが葉裏に毛の出る本変種は他地域でも見出される可能性があります。標本は高橋裕子氏の採品です。

4. 足柄上郡中井町に産するウシハコベの一品

1981年5月24日足柄上郡中井町井ノ口の牧場脇で榎山泰一先生がウシハコベの腺毛を密生した、一見露を敷いたような品種を見出された。ウシハコベはヨーロッパから日本迄のいわゆるユーラシア大陸に共通の広分布種ですが、この変わった一品を探すため Hegi 氏の中ヨーロッパ植物誌 (*Flora III/2 S.901~2*) を見ました処、四変種があり記載の図版 (*Tafel.101*) によれば、ウシハコベの標準変種こそが、この中井町の種類と同じらしく見えるのです。それでは日本で普通に見られるものは学名上何かと言えば、この書の次の変種に相当すると考えられます。 *Myosoton aquaticum* Moench var. *glabrum* Peterm. で本品はヨーロッパでは *Selten* (稀) と書かれていることが面白く感じられます。ヨーロッパでは腺毛を密生したものが普通で、中井町のは牧草に混

って帰化したものではないかと考えられます。何れにしてもユーラシア大陸の両端では同じ植物でも内容が異なるというのはレンブクソウの染色体数の例を引くまでもなく、当然のことでしょう。コキンバイなども絵を見ますと日本産とズレがありそうです。

5. ウスギオウレンとカントウミヤマカタバミ

前者は田村道夫氏が北陸の植物第26巻第1号(1978)通巻第101号に発表された新種で丹沢・大山にも産することが判明して居り、氏の編著・日本の植物研究ノート中にも記述があります。後者は寺尾博氏が植物分類地理第30巻第1~3号(1979)に発表したミヤマカタバミの新変種です。高尾山、箱根山、大山、丹沢山など奥多摩から伊豆半島、富士山周辺に産するようです。ここに紙面を借りて神奈川県に關連する新しい種類に注意を払われるよう諸兄姉にお願い申し上げます。なお最近完結した好著、日本の野生植物(平凡社刊)IIに美しい写真と共に説明があります。

6. 三浦鷹取山産オオウラジロノキ

本種に関しては故大谷茂先生が横須賀市博物館研究報告(自然科学)第3号(1958)に神武寺山(二ヶ所に生育)の産を報告されました。筆者は1981年3月29日に榎山泰一先生にその所在を案内していただき1本が生育するのを見えたいしましたが、1982年1月3日に今度は、鷹取山から返子市清掃工場へ向う尾根筋で特徴ある樹姿を持った本種を見ました。これが大谷氏報ずる二ヶ所の内の一ヶ所なのかは不明ですが、とにかくこの種がこの地域に広布していることの実証であると思われま

(横浜・長谷川 義人)

横浜南ブロック調査会の記録

実施日 57年3月28日(日)AM9時~

場所 氷取沢市民の森(磯子区側の谷筋中心)

指導者 高橋先生、村上先生、長谷川先生。

参加者 萩原恭一、吉川アサ子、平松俊子、平井かつ子他二名、中村真子、内藤美知子。

当日は、丁度ヤマザクラが満開で、紅色の葉かげに淡いピンクの花をかき上げ、我々の目を楽しませてくれました。谷筋はさすがに羊歯が多く、中でもリョウメンシダの群落は、素晴らしいものでした。その他ヤマドリカブトやウバユリの群落も見られ、秋が楽しみです。

帰りに長谷川氏が、イヌザクラとアワブキの確認をなさいました。採集は主に中村、長谷川両氏が行い、記録は内藤が取りました。

当日観察した主な植物

羊歯植物—クマゴケ、スギナ、フユノハナワラビ、オオハナワラビ、センマイ、フモトシダ、ホラシノブワラビ、イノモトソウ、イワガネソウ、イノデ、ヤブツツ、ヤマヤブツツ、リョウメンシダ、オクマワラビ、クマワラビ、オオイタチシダ、ヤマイトチシダ、トウゴクシダ、ベニシダ、ミゾシダ、ホシダ、イヌワラビ、ツクシダ、コモチシダ、トラノオシダ、ミツデウラボソ。

A5 イヌガヤ科—イヌガヤ。

B 1 ガマ科—ヒメガマ。
 B 10 イネ科—アズマネザサ、ヤダケ、スズメノカタビラ、ミヅイチゴツナギ、トダシバ、ススキ。
 B 11 カヤツリグサ科—ケスゲ、シラスゲ、ナキリスゲ、ヒメカンスゲ、ホンモンジスゲ、ミヤマカンスゲ。
 B 12 ヤシ科—シュロ。
 B 13 サトイモ科—ウラシマソウ、セキショウ、ショウブ、マムシグサ。
 B 19 イグサ科—スズメノヤリ。
 B 21 ユリ科—ウバユリ、オオバジャノヒゲ、キチジョウソウ、サルトリイバラ、ジャノヒゲ、スルボ、ナガバジャノヒゲ、ノビル、ハナニラ、ホウチャクソウ、ホトトギス、ヤブカンゾウ、ヤブラン、ヤマホトトギス、ヤマユリ。
 B 22 ヒガンバナ科—ヒガンバナ。
 B 23 ヤマノイモ科—オニドコロ、ヤマノイモ。
 B 27 ラン科—エビネ、サイハイラン、ジュンラン。
 C 1 ドクダミ科—ドクダミ。
 C 4 ヤナギ科—シバヤナギ。
 C 8 ブナ科—アラカシ、クヌギ、コナラ、シラカシ、スタジイ。
 C 9 ニレ科—エノキ、ケヤキ。
 C 10 クワ科—イヌビワ、イタビカズラ、コウゾ、ヤマグワ。
 C 11 イラクサ科—イラクサ、カラムシ、コアカソ。
 C 17 ウマノスズクサ科—カンアオイ。
 C 20 タデ科—ギシギシ、スイバ、イタドリ。
 C 27 ナデシコ科—ウシハコベ、オランダミミナグサ、ツメクサ、ノミノツツリ、ノミノフスマ、ハコベ。
 C 33 キンボウグサ科—アキカラムツ、イヌショウマ、ウマノアシガタ、ケキツネノボタン、サラシナショウマ、センニンソウ、タガラシ、ハンショウツル、ヒメウス、ヤマトリカブト。
 C 34 アケビ科—アケビ、ミツバアケビ。
 C 35 メギ科—メギ。
 C 37 モクレン科—サネカズラ。
 C 38 クスノキ科—アブラチャン、クロモジ、シロダモ、タブノキ、ヤマコウバン。
 C 39 ケン科—ムラサキケマン。
 C 41 アブラナ科—イヌガラシ、スカシタゴボウ、タネツケバナ、ナズナ。
 C 44 ユキノシタ科—アカショウマ、ウツギ、タマアジサイ、ヨゴレネコノメソウ、ヤマアジサイ、ヤマネコノメソウ、ユキノシタ。
 C 47 バラ科—イヌザクラ、オオシマザクラ、カマツカ、ダイコンソウ、テリハノイバラ、ノイバラ、フイチゴ、ヘビイチゴ、モミジイチゴ、ヤブヘビイチゴ、ヤマザクラ、ワレモコウ。
 C 48 マメ科—カラスノエンドウ、クズ、シロツメクサ。
 C 49 フウソウ科—ゲンノショウコ。
 C 50 カタバミ科—カタバミ。
 C 53 ミカン科—コクサギ、サンショウ、ミヤマシキミ。

C 57 トウダイグサ科—タカトウダイ、ナツトウダイ。
 C 64 ニシキギ科—マサキ、マユミ。
 C 70 アワブキ科—アワブキ。
 C 79 ツバキ科—チャ、ツバキ、ヒサカキ。
 C 82 スミレ科—コスミレ、タチツボスミレ、コタチツボスミレ。
 C 84 キブシ科—キブシ。
 C 85 ジンチョウゲ科—オニシバリ。
 C 86 グミ科—ツルグミ。
 C 92 アカバナ科—マツヨイグサ。
 C 96 ウコギ科—キツタ、タラノキ、ハリギリ、ヤツデ。
 C 97 セリ科—ウマノミツバ、シシウド、セリ、チドメグサ、ツボクサ、ミツバ、ヤブニンジン。
 C 98 ミズキ科—アオキ、ミズキ。
 D 5 ヤブコウジ科—カラタチバナ、ヤブコウジ。
 D 10 エゴノキ科—エゴノキ。
 D 11 モクセイ科—イボタノキ。
 D 14 キョウチクトウ科—テイカカズラ。
 D 18 ムラサキ科—キュウリグサ、ホタルカズラ。
 D 20 シソ科—カキドウシ、キランソウ、コバノタツナミソウ、トウバナ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザ。
 D 21 ナス科—クコ。
 D 22 ゴマノハグサ科—オオイヌノフグリ。
 D 25 イワタバコ科—イワタバコ。
 D 30 オオバコ科—オオバコ。
 D 31 アカネ科—アカネ、ヘクソカズラ、ヤエムグラ。
 D 32 スイカズラ科—ウグイスカグラ、ガマズミ、スイカズラ、ニワトコ、ハコネウツギ、ヤブデマリ。
 D 34 オミナエシ科—ツルカノコソウ。
 D 36 ウリ科—カラスウリ。
 D 37 キキョウ科—ツリガネニンジン、ホタルブクロ、ヤマホタルブクロ。
 D 38 キク科—ハハコグサ、シラヤマギク、シロヨメナ、セイタカアワダチソウ、ノコンギク、ハルジオン、ヨモギ、リュウノウギク、タイアザミ、オオジシバリ、オニノゲシ、カントウタンポポ、セイヨウタンポポ、ノゲシ。

(内藤美知子)

横浜南ブロック合同調査の記録

曇り空で寒く、しかも土曜日の午後だけということ
 で、あまり参加者がいないだろうと思って出かけてみたら、意外に参加者が多いのでびっくり(19名)。植物の方は晩秋のことでもあり、それほど収穫はなかったが、それでもイワデンド(大場先生発見)、ヒメアブラサスキとかミシマサイコなどが見つかり、やはり多くの目で観察することが必要だと痛感した。またイネを刈りとった跡の田圃にオオアカウキクサの群落がみごとに広がっていた。

このコースは横浜南部地区でも一応開発がストップ

された地区で、あまり人手が加わっていない。ちょうど紅葉がみごろで、スギ林の中にはイノデを始めとするシダ類の大群落もみられる。とにかく春から夏にかけてやったらいコースである。

以下は、11月28日午後の2時間ほどの間に村上と長谷川が観察、採取したものみの記録である。他の日に記録されたものは今回は掲載していない。

日時 11月28日(土)

場所 横浜市戸塚区上郷町瀬上谷戸

しだ植物

アスカイノデ、イタチシダ、イヌスギナ、イヌワラビ、イノデ、イワガネソウ、イワデシダ、オオイタチシダ、オオバノイノモトソウ、カニクサ、ゲジゲシシダ、コモチシダ、シケシダ、スギナ、ゼンマイ、トウゴクシダ、トラノオシダ、ハリガネワラビ、フモトシダ、ベニシダ、ホシダ、ミゾシダ、ミツデウラボシ、ヤブソテツ、リョウメンシダ、オオアカウキクサ。

単子葉植物

いね科——オヒシバ、ニワホコリ、チョウセンガリヤス、ノガリヤス、アキメヒシバ、イヌビエ、ケイヌビエ、コチヂミザサ、チカラシバ、チヂミザサ、ヌカキビ、ハイヌメリ、アブラススキ、オガルカヤ、オギ、コブナグサ、ススキ、チガヤ、ヒメアブラススキ、アシ、アズマネザサ、トダシバ。

かやつりぐさ科——アセガヤツリ、カヤツリガサ、カワラスガナ、ヒメクグ、シラスゲ、ナキリスゲ、ヒゴクサ、ミヤマカンスゲ、アブラガヤ?、ホタルイ、ヤマイ。

うきくさ科——オオアカウキクサ。

つゆくさ科——ヤブミョウガ。

いぐさ科——イ。

ゆり科——オオバジャノヒゲ、サルトリイバラ、ヌルボ、ヤマラッキョウ。

やまのいも科——オニドコロ。

らん科——サイハイラン。

離弁花植物

やなぎ科——ジャヤナギ。

かばのき科——ハンノキ。

ぶな科——アラカシ、コナラ。

くわ科——イタビカズラ、ヤマグワ。

いらくさ科——アオカラムシ、ミズカラムシ、コアカソ。

うまのすずくさ科——カンアオイ。

たで科——イタドリ、イヌタデ、ギンギシ、シロバナサクラタデ、ハナタデ、ミズヒキ、ミゾソバ。

あかさ科——シロザ。

ひゆ科——ヒカゲイノコズチ。

なでしこ科——カワラナデシコ、コハコベ、ウシハコベ、ノミノツズリ。

きんぽうげ科——アキカラマツ、イヌシヨウマ、ケツネノボタン、サラシナシヨウマ、シロバナハンシヨウヅル、センニンソウ、ヒメウズ。

あけび科——アケビ、ミツバアケビ。

つづらふじ科——カミエビ。

くすのき科——クロモジ、シロダモ、タブノキ、ヤ

ブニッケイ。

けし科——ムラサキケマン。

あぶらな科——タネツケバナ

ゆきのした科——アカシヨウマ、ウツギ、タマアジサイ、マルバウツギ、サワアジサイ。

ばら科——オオフジイバラ、クサイチゴ、シモツケ、ダイコンソウ、ヘビイチゴ、ワレモコウ、モミジイチゴ。

まゆ科——クズ、コマツナギ、トキリマメ、ネムノキ、ノササグ、フジ、ヌスビトハギ。

ふうろそう科——ゲンノシヨウコ。

みかん科——サンシヨウ、コクサギ。

うるし科——ヤマハゼ。

もちのき科——イヌツゲ。

にしきぎ科——マユミ。

かえで科——イロハカエデ。

ぶどう科——エビヅル。

おとぎりそう科——オトギリソウ?

すみれ科——タチツボスミレ。

きぶし科——キブシ、ハチジョウキブシ。

ぐみ科——ツルグミ。

うこぎ科——ウド、キツタ、ハリギリ。

せり科——ウナムイツバ、シシウド、セリ、ノダケ、ノチドメ、シシマサイコ。

みずき科——アオキ、ミズキ。

合弁花植物

えごのき科——エゴノキ。

もくせい科——イボタノキ、オカイボタ。

りんどう科——リンドウ。

きょうちくとう科——テイカカズラ。

ががいも科——ガガイモ。

むらさき科——ホタルカズラ。

くまつづら科——ムラサキシキブ、クサギ。

しそ科——イヌトウバナ、ウツボグサ、キランソウ、ヤマハッカ。

なす科——ワルナスビ

きつねのまご科——キツネノマゴ

はえどくそう科——ナガバハエドクソウ。

おおばこ科——オオバコ。

すいかずら科——コバノガマズミ、スイカズラ、ハコネウツギ。

おみなえし科——ツルカノコソウ。

うり科——アマチャヅル、カラスウリ。

ききょう科——ツリガネニンジン。

きく科——コオニタビラコ、オニタビラコ、コウゾリナ、ジシバリ、ムラサキニガナ、キツネアザミ、タイアザミ、ノハラアザミ、サワヒヨドリ、ヒヨドリバナ、アキノキリンソウ、シラヤマギク、セイタカアワダチソウ、ユウガギク、ヨメナ、ダンドボロギク、ベニバナボロギク、ヨモギ、リュウノウギク、アメリカセンダングサ、タカサブロウ、ヤクソソウ、コウヤボウキ。

(長谷川義人、村上司郎)

県央地区合同調査の記録

調査コース 愛川町八管山→海底→塩川滝

調査日 1981年11月22日

記録 山口勇一, 内藤美知子

羊歯植物

トクサ科— スギナ。

ヒカゲノカズラ科— トウゲシバ。

ハナワラビ科— フユノハナワラビ。

ゼンマイ科— ゼンマイ。

フサシダ科— カニクサ。

イノモトソウ科— ホラシノブ, ワラビ, イノモトソウ, オオバノイノモトソウ, タチシノブ。

オシダ科— イノデ, アスカイノデ, アイアスカイノデ, ヤマヤブソテツ, オオカナワラビ, オクマワラビ, クマワラビ, ベニシダ, イタチシダ, オオイタチシダ, ミゾシダ, オオゲジゲジシダ, ハシゴシダ, ハリガネワラビ, ヤワランシダ, ヒメワラビ, ホシダ, ホソバシケシダ, シケシダ, ヘビノネゴザ, イヌワラビ。

チャセンシダ科— トラノオシダ。

ウラボシ科— ノキンノブ, マメツタ。

裸子植物

イチイ科— カヤ。

マツ科— アカマツ, モミ。

スギ科— スギ。

ヒノキ科— ヒノキ, サワラ。

被子植物〔離弁花類〕

カバノキ科— アカシデ, ヤマハシノキ, ヤシヤブシ。

ブナ科— シラカシ, アラカシ, コナラ, クヌギ, クリ, スダジイ。

ニレ科— ケヤキ, エノキ。

クワ科— クワクサ, ヤマグワ, コウゾ, カナムグワ。

イラクサ科— アオミズ, カラムシ, アオカラムシ, コアカツ, ヤブマオ。

ウマノスズクサ科— オオバウマノスズクサ, ウマノスズクサ, カンアオイ。

タデ科— エゾノギシギシ, イシミカワ, イヌタデ, イタドリ。

ヒユ科— イノコズチ。

ヤマゴボウ科— ヨウシュヤマゴボウ。

キンボウゲ科— ハンショウズル, シロバナハンショウズル, センニンソウ, シュウメイギク, アキカラマツ, サラシナショウマ, ニリンソウ。

アケビ科— ミツバアケビ, ゴヨウアケビ。

メギ科— ナンテン。

ツツラフジ科— アオツツラフジ。

モクレン科— ホウノキ, サネカズラ, シキミ。

クスノキ科— ヤブニッケイ, タブノキ, クロモジ, アブラチャン, ダンコウバイ。

ケシ科— タケニグサ。

ユキノシタ科— ウツギ, マルバウツギ, コアジサイ, イワガラミ, ユキノシタ, アカショウマ。

バラ科— コゴメウツギ, ヘビイチゴ, ニガイチゴ, クマイチゴ, モミジイチゴ, クサイチゴ, ワレモコウ, キンミズヒキ, ノイバラ, ヤマザクラ, ウワミズザク

ラ, フユイチゴ。

マメ科— ネムノキ, キハギ, マルバハギ, ネコハギ, フジカンゾウ, ヌスビトハギ, クズ, コマツナギ, フジ, ムラサキツメクサ, シロツメクサ, ヤマハギ, タンキリマメ, ヤブマメ。

カタバミ科— カタバミ, ミヤマカタバミ。

ミカン科— サンショウ, イヌザンショウ。

トウダイグサ科— アカメガンソウ。

ウルシ科— ウルシ, ヌルデ。

モチノキ科— モチノキ。

ニシキギ科— ツルウメモドキ, コマユミ, マユミ, ツリバナ。

ミツバウツギ科— ミツバウツギ, ゴンズイ。

カエデ科— ウリカエデ, オオモミジ, イタヤカエデ。

アワブキ科— アワブキ。

クロウメモドキ科— クマヤナギ。

ブドウ科— エビズル, ノブドウ, ツタ, ヤブガラシ。

ツバキ科— チャノキ, ヤブツバキ, ヒサカキ。

オトギリソウ科— オトギリソウ。

キブシ科— キブシ。

グミ科— ツルグミ。

ウコギ科— タラノキ, ウド, キヅタ, ヤツデ, ハリギリ。

セリ科— ミツバ, セントウソウ, カノツメソウ, ヤマゼリ, ホタルサイコ。

ミズキ科— アオキ, ハナイカタ, ミズキ, ヤマボウシ。

〔合弁花類〕

ツツジ科— ヤマツツジ。

ヤブコウジ科— ヤブコウジ, マンリョウ。

サクランソウ科— オカトラノオ。

カキノキ科— カキノキ。

エゴノキ科— エゴノキ。

モクセイ科— イボタノキ。

リンドウ科— ツルリンドウ。

キョウチクトウ科— テイカカズラ。

クマツヅラ科— ムラサキシキブ, ヤブムラサキ。

シソ科— キランソウ, オドリコソウ, アキノタムラソウ, キバナアキギリ, シモバシラ, フトボナギナタコウジュ。

ゴマノハグサ科— オオイヌノフグリ。

オオバコ, ヘラオオバコ。

アカネ科— ヘクソカズラ, ヤエムグラ。

スイカズラ科— ニワトコ, ソクズ, ガマズミ, ツクバネウツギ, ハコネウツギ, コバノガマズミ, ニシキウツギ。

オミナエシ科— オトコエシ。

ウリ科— カラスウリ, アマチャズル。

キク科— コヤブタバコ, センボンヤリ, コウヤボウキ, カシワバハグマ, オオバタクサ, ヒヨドリバナ, アキノキリンソウ, オオアワダチソウ, ヨメナ, オオアレチノギク, ノコンギク, ヤブレガサ, リュウノウギク, コメナモミ, アメリカセンダングサ, センダン

グサ、タイアザミ、アキノノゲシ、ノゲシ、オノノゲシ、ヤクシソウ、ハキダメギク、ベニバナボロギク、ルトベキア、ブタナ。

単子葉植物

ガマ科 — コガマ。

イネ科 — マダケ、オカメザサ、スズタケ、ハチク、ノガリヤス、ヤマカモシグサ、イヌムギ、ツルヨシ、アキメヒシバ、ケチヂミザサ、コチヂミザサ、チガヤ、ススキ、ジュズダマ、メリケンカルカヤ、ハイチゴザサ、ヒメノガリヤス。

カヤツリグサ科 — カンスゲ、ナキリスゲ、タガネソウ。

ヤシ科 — シュロ。

ツクサ科 — ヤブミョウガ。

イグサ科 — イ。

ユリ科 — ヤマホトトギス、オオバギボウシ、ウバユリ、ヤマユリ、ヤブラン、ジャノヒゲ、シオデ、サルトリイバラ、オオバジャノヒゲ。

ヤマノイモ科 — ヤマノイモ、オニドコロ。

アヤメ科 — ニワゼキショウ。

ラン科 — エビネ、サイハイラン。

(山口勇一, 内藤美知子)

植物誌調査会の総会

4月24日、県立博物館で植物誌調査会の総会を行いました。出席者は39名でした。

会計と会務報告のあと、植物誌刊行までの計画について話し合われました。またスライドを用いて、コンピューターを用いたまとめ方や最近神奈川県に見られる話題の植物について大場氏より発表がありました。終わった後にブロック別の分科会も行われ今後の調査計画を話し合って4時頃散会しました。

植物誌調査会名簿の追加

県央地区

[Redacted names]

鎌倉・三浦地区

[Redacted names]

横浜・川崎地区

[Redacted names]

植物誌刊行までの計画 (案)

- 1981年 現地調査
- 1982年 ブロック別チェックリスト完成
空白メッシュ調査
仮目録・仮分布図印刷
- 1983年 補足調査
賛助執筆依頼
- 1984年 編集
- 1985年 = 刊行 =

大変発行が遅れましたがフロラカナガワ12号をおとどけします。引き続き13号を編集しています。新産地短報、研究短報、植物誌調査に関する文献紹介、植物誌調査に関するご意見など、お気がるに投稿下さい。口座番号が次のように変わりました。

横浜 3-10195
神奈川県植物誌調査会